

兵庫県立神戸北高等学校 令和4年度 学校経営の重点等

1 校訓、教育目標、めざす生徒像及び重点的な取組

(1) 校訓〈創立当時の文言〉

誠実： 他人を尊ぶとは、自己に誠実であることにより始まる。すべての人が誠実であるところに、人間関係が成り立たねばならない。本校は、まず誠実な人づくりに力を入れたい。

規律： すべての社会に規律がある。しかも、これが民主的につくられ、民主的に守られることが大切である。本校では、規律を守り、責任を重んじる教育方針を貫きたい。

信愛： 平和な世界、平和な社会成立の根本には、相互の信愛が必要である。本校では、教職員間、生徒間、教職員生徒間でそれぞれの関係が信愛で結ばれるよう努力したい。

実践： 本校では基礎・基本を大切に、豊かな人間性と健全なる精神を養い、社会の有為な形成者としての必要な資質を培う。学習面でも、生活面でも、学校生活のあらゆる面で強い実践力をもって進みたい。

(2) 教育目標とめざす生徒像

ア 教育目標

未来への道を切り拓く力を身につけた、日本の明日を担うところ豊かな生徒の育成

イ めざす生徒像

(ア) 社会に貢献できる生徒

(イ) 自尊感情を持ち、生きる力を身につけた生徒

(ウ) 基礎基本を身につけ、自ら判断して行動できる生徒

(3) 重点的な取組

「SDGs に基づいた教育活動」

本校で行う全ての教育活動・行事について、国連の SDGs 17 の各目標との関連を確認し、日本の SDGs 達成に貢献する意識を持つ。



2 学校経営の重点

(1) 開かれた学校づくり

ア 地域の人的・物的資源を活用するとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。

イ 保・幼・小・中・自治会と連携し、地域の拠点として各行事に協力・参加する。

ウ 学校関係者評価を活用し、学校の活性化につなげる。

(2) 生徒の自主・自律・共生の育成

ア 生活習慣を正し、校内外における挨拶を含めたマナー指導を徹底させることで、高校生としての姿を確立させる。

イ 学業と部活動を両立させ、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。

ウ 人権教育の充実を図り、ともに生きる心を育む。

(3) 特色化の一層の推進

ア 福祉ボランティア類型の一層の充実を図る。

イ 「なんかええやん神戸北高」を合い言葉に、魅力的な学校づくりを推進する。

ウ 幼児・児童や高齢者の方々との異世代交流を進め、コミュニケーション力を育む。

エ 地域に根ざした高校として、地域との協働による取り組みをさらに進める。

オ 海外の教育交流提携校との交流を定着させ、国際交流を活発化する。

(4) 授業第一主義と確かな学力の定着

ア 確かな学力を培う「魅力ある授業」を創造する。

イ 予習・授業・復習の学習サイクルを定着させる。

ウ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成する。

(5) 安心して過ごせる安全な学校づくり

- ア 家庭・地域・関係機関との連携を図り、生徒を見守る体制を構築する。
- イ より実践的な安全教育・防災教育を行い、教職員・生徒ともに危機対応力を高める。
- ウ 環境教育を一層推進するとともに環境美化に努め、施設・設備を大切に使用する公共心を育む。

(6) 活力ある組織と明るく働きやすい職場づくり

- ア 報告・連絡・相談を密にし、風通しの良い職場にする。
- イ 勤務の適正化により、生徒と向き合う時間を確保する。
- ウ 服務規律を確保し、県民の信頼を損なわないようにするとともに教職員の資質・能力の向上に務める。

(7) 創立50周年記念事業の推進

- ア 創立50周年記念事業実行委員会を本校職員、PTA、同窓会で組織し、記念事業を推進する。
- イ 創立50周年記念式典・記念講演・記念公演・祝賀会の企画・立案から準備・実施までを推進する。
- ウ 創立50周年記念品の検討・選定から購入・設置までを推進する。
- エ 創立50周年記念誌の企画・立案から校正・印刷までを推進する。

3 教科指導および生徒指導(特別教育活動を含む)の重点

(1) 教科指導の重点

ア 基本方針

基礎・基本の定着を図り、自ら学び、自ら考える力と、生涯にわたって学び続ける自己教育力を育成し、「生きる力」を持った魅力ある生徒を育成する。

イ 学習指導の充実

- (ア) 教育内容の基礎・基本を確実に定着させるとともに、体験的な学習やICT機器の活用を取り入れ、学ぶことの楽しさや達成感が味わえる授業の実現を目指す。
- (イ) 規律ある授業を通じて、自学自習の姿勢を確立させるとともに、新学習指導要領においてきめ細かく個を生かす学習指導を実践する。
- (ウ) 学習の主体は生徒自身であることを認識させ、自己の人生目標を探究し、生涯を通じ積極的に学び続けようとする意欲を醸成する。

(2) 生徒指導の重点

ア 基本方針

生徒の規範意識と自己肯定感を高め、可能性を引き出し、社会でたくましく生きていくことができる能力を育む。そのためには、教職員と生徒とが愛情と信頼で結ばれたうえで、生徒一人一人を大切にすきめ細やかな指導に務める。

イ 生徒指導の徹底

- (ア) 個人面談や家庭との連携を密にし、生徒指導の徹底を図る。
- (イ) 基本的生活習慣の確立と集団の一員としての自覚を高め、規律を遵守する態度を養う。
- (ウ) 在り方・生き方を深く考えるとともに、自ら判断して行動し、その結果については責任が取れる自律した生徒を育てる。

ウ 進路指導の充実

- (ア) 教職員の生徒理解、生徒の自己理解を深めるなかで、適性、意欲、興味・関心を進路設計に役立たせ、自己実現を図らせる。
- (イ) 能力・適性に応じた進路選択を進めるためキャリアパスポートの活用等、情報の収集及びその効果的な利用を図り、各自の早期進路決定を促す。

エ 特別活動の促進

- (ア) 学校行事への積極的な参加により、愛校心を高め、責任感を自覚させるとともに、集団活動を通じて、望ましい社会性を培う。
- (イ) ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動を活性化し、生徒の自主性を高め、積極的な学校生活の中に堅実な校風を樹立させる。

4 健康管理に関する指導の重点

- (1) 各種検診等を実施し、健康の保持増進と自己管理ができる能力を養う。
- (2) 講演会等、様々な教育活動を通して命を大切にすることを育む教育をすすめる。
- (3) 教育相談(こころの相談室)を活用し、心のバランスを崩しがちな生徒への支援を強化する。
- (4) 新型コロナウイルス感染防止対策等、日常での安全衛生管理を徹底する。

5 研究テーマ

- (1) 「高校生心のサポートシステム」研究開発校

ア テーマ

「命を大切にすることを育む実践・研究(自殺予防)」

イ 方針

「学校生活における体験活動や、『自殺予防に生かせる教育プログラム』を積極的に活用し、予防活動を充実させると共に授業改善を実践し教員の資質向上を図ることことで、生徒の自己有用感や自尊心は高まる」との仮説を設定し、それを検証するための研究を実施する。

- (2) 「ひょうご学力向上研究事業」指定校

ア テーマ

「周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれるプログラム開発」

イ 方針

- (ア) 学校全体で学業に対する興味・関心や学習意欲の向上を図り、生徒の意識改革を実践する。
- (イ) ICT 機器を活用し、家庭学習プログラムを策定する等、学習に対して動機づけを行う教材を開発する。
- (ウ) 若手教員への組織的な支援を行い、授業改善への意欲の高い教員集団を構築する。
- (エ) 令和2年度より部活動「学力向上委員会」を設置し、大学見学等、外部との交流を含めた学習活動を展開する。

6 高校生ふるさと貢献活動事業で実施する内容

- (1) 里山づくり

19年目を迎える本校の地域交流行事である。地域のボランティアの方々のご指導のもと、里山に関して学び、里山整備の一翼を担う。特色類型生徒や部活動部員を中心に学期に2回、年間6回程度の清掃及び整備作業を実施する。

- (2) 地域花壇整備や地域清掃等の美化活動

ア 通学路ロータリー花壇の整備。

生徒、PTA、地域住民が共同して、通学路にあるロータリーの花壇で季節の花を作り、地域社会との交流・連携を深める。

イ 唐櫃地区の学校園合同で、「クリーンキャンペーン」を実施。

- (3) あいさつ運動

登校時あいさつ運動の実施と地域の「からと あいさつ運動」への参加。

- (4) 唐櫃台地域合同防災活動

「からとは一つ」の言葉のもとに、からと保育所、からと幼稚園、唐櫃小学校、唐櫃中学校および唐櫃台防災コミュニティと連携し、北消防署および北消防団有野支団の協力により、11月に本校を舞台に大規模な合同防災訓練を実施する。

- (5) ふるさと貢献ボランティア活動

ア 小学校での水泳指導や補充授業の補助活動を実施する。

イ からと児童館、カトリア六甲ほかの夏祭り運営補助を行う。

- (6) 凧揚げ大会等

地域の行事に、生徒会、ボランティア委員会、運動部等の生徒が参加する。

7 高校生就業体験事業で実施する内容

(1) 就業体験実習

地域の企業・病院・福祉施設といった事業所を中心に、2学年で就業体験実習を行う。

事前学習として、進路適性検査、生徒・保護者との面談、参加の心構えの指導等を実施。事後学習としては、実習のまとめを作成して報告するとともに、キャリア・アドバイザー等による進路相談を実施する。

(2) 進路講演会

職業人、専門学校教員、キャリア・アドバイザー等を招き、職業や進路選択への理解を深める。

8 高校生キャリアノートの活用に関する内容

(1) 内容の共通理解

各学年の進路係を中心に、活用計画を立てる。

(2) 活用目標

各学年において、LHRや総合的な学習の時間を利用して活用する。

9 県立高校特色づくり推進事業 ～インスパイア・ハイスクール～ で実施する内容

(1) 外部講師による講義を設定し、幼児教育や介護について理解を深める。

(2) 地域と連携したボランティア活動等を実施することで、社会の一員である自覚と責任感を養うとともに、奉仕精神や自己の生き方在り方について考える力を身に付けさせる。

ア 「神鉄モヨウガエ」の協力

(ア) 「総合的な探究の時間」において唐櫃台の地域活性化の方策を検討し、発表する。

(イ) 神戸電鉄と連携し、唐櫃台駅周辺の地域活性化の方策を検討し、実践する。

イ 「からと天文教室」の実施

唐櫃小学校生が本校を訪れ、天体望遠鏡・プラネタリウム観察等の体験活動を行う。

ウ 「オオムラサキ・プロジェクト」の推進

(ア) ササユリや、オオムラサキの食木であるエノキの保護活動。

(イ) オオムラサキの幼虫飼育、羽化、放蝶に向けて、関係機関と連携して事業を進める。

(ウ) 本校内の大型ケージを利用し、国蝶であるオオムラサキを羽化させる。

(3) 近隣小・中学校との部活動を通じた交流・連携

ア 「からとクリスマスコンサート」の実施

唐櫃小学校、唐櫃中学校及び本校の吹奏楽部でジョイントコンサートを実施し、近隣の方々に音楽を楽しんでいただく。

イ 「バスケットボール部合同練習会」

講師を招いて近隣のバスケットボール部との合同練習会を開催し、技術面やメンタル面などの向上を図るとともに、仲間意識の醸成を図る。